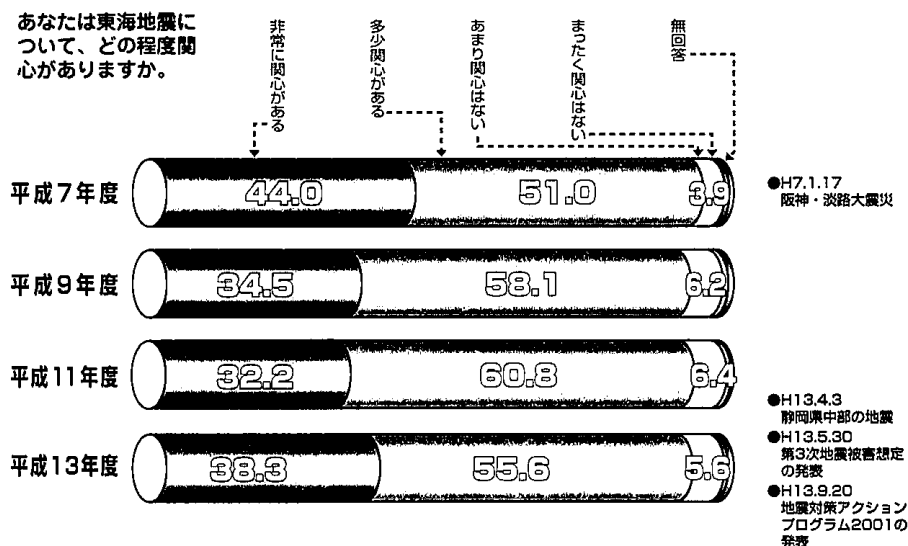


東海地震 についての 県民意識調査結果の概要

〔平成13年度実施〕

東海地震の切迫性が指摘されています。
東海地震対策をもっと身近な問題としてとらえ、
「自らの命は自ら守る」ための備えを皆で考えましょう。

あなたは東海地震に
ついて、どの程度関
心がありますか。



このリーフレットは、平成13年11～12月に県内
にお住まいの方2,000人を対象に実施した「東海
地震についての県民意識調査」結果の主要項目を
まとめたものです。この結果を家庭や地域におけ
る地震防災対策の御参考にしていただければ幸い
です。

静岡県総務部防災局防災情報室
電話(054)221-2644

●防災情報室メールアドレス boujou@hq.pref.shizuoka.jp

●防災局ホームページアドレス

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/>

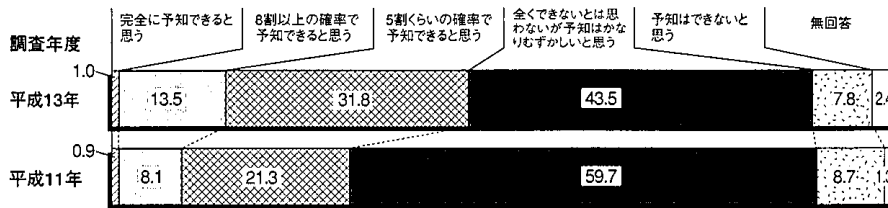
- 調査地域 静岡県下49市町村
- 調査対象 選挙人名簿より抽出された男女個人
(20才～69才)
- 対象者数と
回収数 発送2,000人
実回収1,367人(68.4%)
- 調査方法 郵送調査法
- 実施機関 (株)サーベイリサーチセンター静岡事務所

注: 計算上の都合、四捨五入してあるので合計が100%になら
ない場合があります。複数解答の場合は合計が100%を
超えることがあります。

東海地域では、近い将来、大きな地震の発生が予測されています。



あなたは現時点で東海地震は予測できると思いますか。



現在、県内には地震予測観測のため370か所以上に観測機器を設置しており、気象庁などの国の機関が中心となって24時間監視を行っています。

ただし、地震予測の技術は確立されたものではなく、突然東海地震が発生する可能性も十分あります。

突然地震が発生してもしっかりと対応できるよう、日ごろから備えておくことが大切です。

周期的に起こる大地震

日本列島の太平洋岸では、プレートの潜り込みによる地震が一定の周期で繰り返し起こっています。特にフィリピン海プレートが潜り込む東海から四国にかけての海域では、100年から150年の周期で、しかもほぼ同じ場所、ほぼ同じ規模の大地震が繰り返し起こっています。

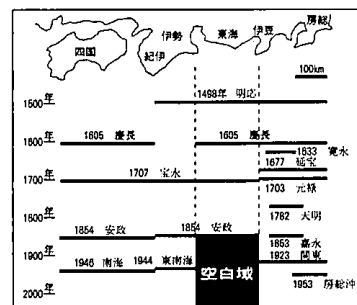
1854年の安政東海地震の後、東海地方より西側では1944年(昭和19年)の南海地震や1946年(昭和21年)の南海地震がすでに発生し、この時、地震のエネルギーが放出され、次の地震はしばらく後と考えられています。

しかし、駿河湾から御前崎沖では未だ地震が発生しておらず、地震のエネルギーが蓄積されていると考えられており、地震活動の空白域とよばれ、近い将来、巨大地震の発生が予想されているのです。

●東海地域で発生した大地震

107年	1498年	明応地震 (M8.4)
102年	1605年	慶長地震 (M7.9)
147年	1707年	宝永地震 (M8.4)
すでに	1854年	安政東海地震 (M8.4)
148年	2002年	(現在)
	経過	

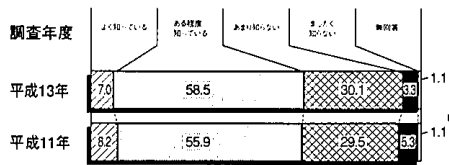
●地震活動の空白域



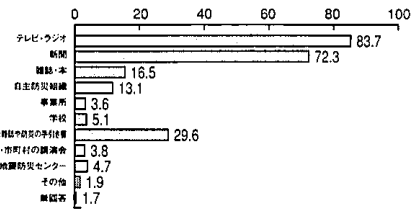
(出典 羽鳥徳太郎に依頼)

知っていますか？ 東海地震の仕組みを。

Q 東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。



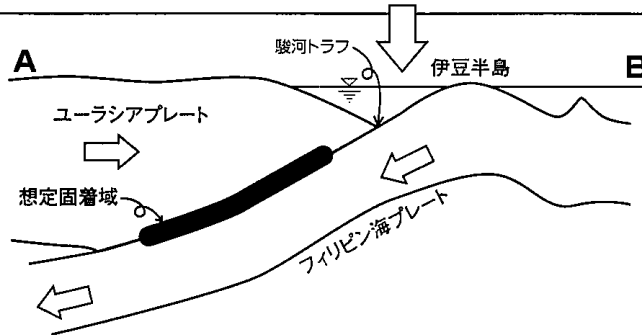
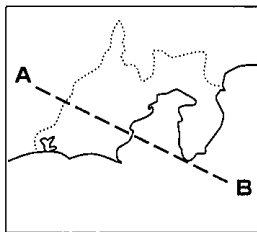
Q 何から知識を得ましたか。



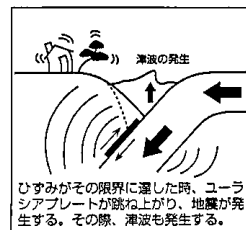
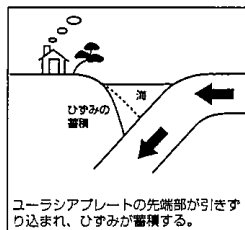
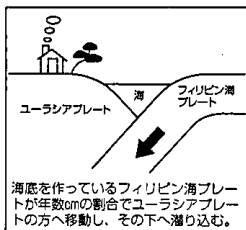
東海地震の発生の仕組みをよく知っている人は1割弱でした。
発生のメカニズムを「よく知っている」人ほど、防災対策は進んでいます。

大地のひずみがたまと起こる

地震は、地下の一部分に大きな力がはたらいて大地がひずみ、その岩石の強さでは耐えきれなくなったとき、急にその部分が破壊されて起こると考えられています。駿河トラフといわれる大地のくぼみでは、伊豆半島を乗せたフィリピン海プレートが潜り込むときに、静岡市や浜松市などを乗せたユーラシアプレートを引きずり込んでいます。そのため、この付近で大地のひずみがどんどんたまり、このひずみが限界に達して、大地が破壊されて跳ね上がったときに大地震が起こると考えられています。



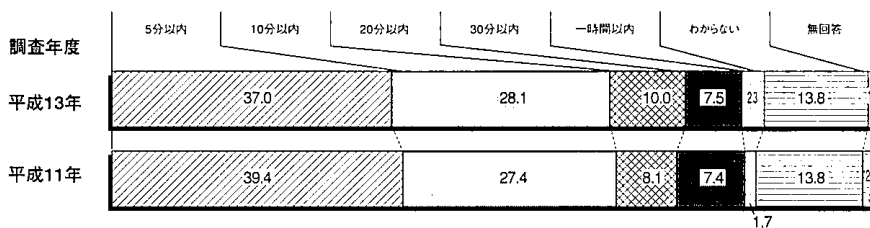
予想される東海地震はプレート境界で起こるので「プレート境界型地震（海溝型地震）」と呼ばれています。



東海地震が発生した場合は、 阪神・淡路大震災時を上回る大きな被害と 津波による被害が予想されます。



東海地震発生後、津波は早いところでは
どのくらいの時間で沿岸にくると思いますか



東海地震が発生した場合、駿河湾では早いところで0~5分で沿岸に達します。
海を伝わる津波の早さは、飛行機や新幹線なみです。

●東海地震の被害想定と阪神・淡路大震災の被害との比較

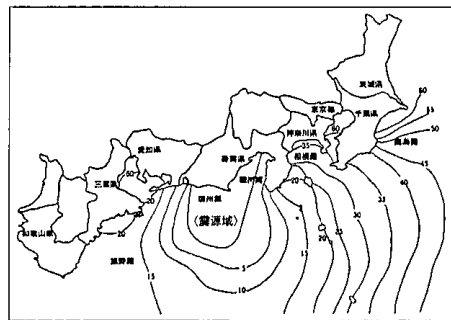
項目	阪神・淡路大震災	東海地震被害想定(予知なし)	阪神・淡路大震災との比較
地域の人口	約547万人	約374万人(静岡県内)	0.7倍
マグニチュード	7.3	8程度	約1.0倍
震度7の区域	約30km ²	約131km ²	4.4倍
人的被害(死者・重・軽傷者)	約5万人	約11万人	2.2倍
物的被害(建物破壊(大・中))	約24万9千棟	約49万棟	1.9倍
津波被害	なし	あり(死者約220人)	-

※阪神・淡路大震災における被害の数字は消防庁災害対策本部資料より

●津波の到達時間

波源域の広がる駿河湾内を中心に津波が発生し、駿河湾内の地域では直後~5分程度、遠州灘で直後~10分程度、伊豆半島南部の下田あたりで10~15分程度、伊豆半島東部の伊東・熱海で30分程度で第1波が到達します。

津波は1波、2波、3波と繰り返し襲ってきますが、必ずしも第1波が最大とは限らず、場所によっては第1波より第2、第3波の津波波高が高い場合があり、少なくとも12時間以上の警戒が必要です。



想定東海地震津波の第1波予想到達時間(分)
(第1波:東海地震発生後の±5cmの水位変動)

